

「H子」受贈記念

加清純子作品公開

戦後間もない頃の札幌で、加清純子（1933～52年）は中学生の頃から絵画に類いまれな才能を示し、道内や中央の公募展に入選します。また、文学の方面でも大胆な意匠の小説を発表して注目を集めました。しかし、高校卒業を目前に阿寒山中で姿を消し、唐突にその生涯を閉じてしまいました。享年18歳。渡辺淳一の小説「阿寒に果つ」のヒロインのモデルとしても知られています。

当館ではこれまで2回の加清純子展を企画開催し、ご遺族などのご協力により、加清純子作品のコレクションを充実させてきました。絵画の収蔵は30点を数えます。

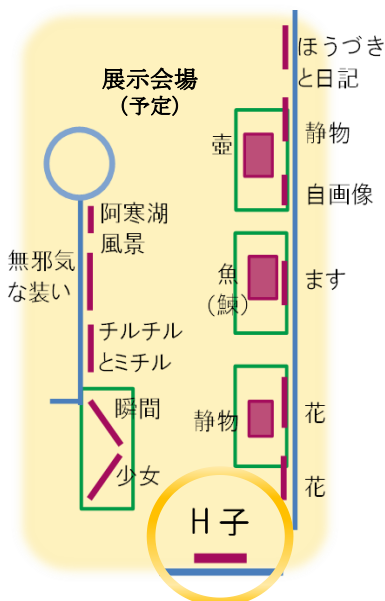
このほど、ここに「H子」（1949年）という隣のクラスの美少女をモデルに描いたものと言われている作品が加わりました。苦小牧で額縁（額装）、書画、画材などを扱う苦美堂（せんびどう）を営む加藤和東（かとうかずとも）氏からのご寄贈で、当館外で所蔵が確認されていた数少ない加清作品の貴重な1点です。当館ではこれを記念し、常設展示室の一角において、既収蔵の14点と合わせ加清純子の油彩15点を公開します。



加清純子「H子」1949(昭和24)年 油彩 73×61 cm
加藤和東氏(苦美堂)寄贈

略年譜

- 1933年 札幌市に生まれる。
- 1948年 15歳で「ほうづきと日記」(油彩)が第23回道展入選。
- 1949年 第1回ユネスコ学生美術展入賞、第24回道展入選。
- 1950年 第4回アンデパンダン女流画家協会展出品。札幌南高校の二年生に編入。渡辺淳一、荒巻義雄と同級生となる。第5回全道展入選。第14回自由美術展入選。同年より、校内誌、新聞などにエッセイや小説を発表。
- 1951年 札幌・大丸新設ギャラリーで個展開催。第5回アンデパンダン女流画家協会展出品、第15回自由美術展入選。10月、同人誌「青銅文学」創刊。以来同人誌に小説などを発表、カットも手がける。
- 1952年 1月、家を出る。釧路で岡村昭彦に面会後、阿寒へ。4月、阿寒湖畔で遺体が発見される。



2024年

3月28日(木)～
4月6日(土)

月曜日休館

9:30～17:00 (入場は16:30まで)

常設展示室内 入口付近

アーカイブコーナーにて

観覧料(常設展観覧料):

一般 500(400)円 高・大生 250(200)円

中学生以下、65歳以上無料

()内は10名以上の団体